

2009 年は、世界的な金融危機の影響を受け、企業にとっては厳しい 1 年でした。その中で、欧州をはじめ日本の隣国、韓国でも、ESG (環境、社会、ガバナンス) を考慮した企業活動をより重視する動きが見られます。

これまで韓国の SRI について何度か取り上げてきましたが、今回は、金融危機が 2009 年の韓国企業の CSR 活動にどのような影響を与えたかという、SolAbility 社¹のレポートをご紹介します。同社の「Corporate Sustainability Survey 2009」によれば、回答企業の 65%が、金融危機後、自社におけるサステナブル経営がより重要な位置づけになったと答えています。これらの活動は、コスト削減や効率性の向上と同時に、新たな収入源を生み出すなど、財務面での効果も期待できるとしています。その効果が特に期待できる経営課題としては、技術革新、従業員満足度、全体的な経営戦略の構築、環境配慮型製品・サービス、省エネといった項目が挙げられています。

そして、レポートの中では、サステナブル経営を進めていく上で、トップのコミットメントが鍵であり、トップがいかに長期的、かつ持続可能な考え方を、マネジメント体制に導入する意識を持っているかということが重要視されています。

2009 年の株価パフォーマンスを見ても、2002 年を基準として、サステナブル企業 50 社²は KOSPI (Korea Composite Stock Price Index) を 250%以上アウトパフォーマンスしているほか、2009 年 9 月までの 1 年でも約 40%アウトパフォーマンスしている上、リーマンショックで株価が急落した後も、より早く回復しています。

レポートによれば、98%の企業が 5 年以内にサステナブル経営を整備すると回答しており、今後も韓国企業の CSR の取り組みが広がることが予想されます。

CSR は社会的な問題を自社の課題として捉え、その解決や改善を本業につなげることで、自らの持続可能性に結びつけることです。韓国企業が、トップのリーダーシップのもと、長期的視点に立って、いかに社会の持続可能な発展に寄与するビジネスモデルをグローバルに構築していくのか、注目していきたいと思います。

¹企業のサステナビリティ評価やコンサルタントを行っているスイスと韓国の合弁会社。

²韓国の上場企業のうち、SolAbility 社が同社の調査基準でサステナブルであると評価した企業。